



なぜ、まもなく死ぬ人に、関わるのでしょうか？

なぜ、まもなく死ぬ人に、時間とエネルギーを費やすのですか？と問われたら、皆さんは何と答えますか？

超高齢多死時代に備えるため、地域包括ケアシステムが活きたシステムとして多職種連携の実践と、その延長にある地域での看取りが求められています。しかし、7月に厚労省から発表されたデータが明らかなように、在宅での看取りは数字としては徐々に増えていますが、これから予想される多死時代に対応できる数字ではありません。この数年、連携拠点事業をはじめ、取り組みがなされてきましたが、なぜ思うような広がりを見せないのでしょうか？私は、冒頭の挙げた問いに、今まで、きちんと向き合い取り組んでこなかったからではないかと感じています。

苦しみを抱えた人に、私たちが関わる事で苦しみが和らぎ、元気になるのであれば、関わる私たちも嬉しいと思うでしょう。しかし、どれほど心を込めて関わったとしても、日に日に弱くなりお迎えが来る人と関わることは、決して簡単ではありません。診療報酬による経済的な誘導を試みても、実際に在宅看取り実績が思うように伸びないことは、厚労省のデータで明らかです。

この20年、医療の現場で看取りに正面から関わってきた現場の1つはホスピス・緩和ケア病棟です。毎日のように若くしていのちを失う苦しむ人とその家族の支援を繰り返してきました。そのホスピス・マインドを言葉にしていく必要性を感じています。

なぜ、まもなく死ぬ人に、時間とエネルギーを費やすのですか？

人は、ただ苦しむわけではありません。その苦しみを通して、苦しむ前には気づかなかった大切な自らの支えに気づいて行きます。あたりまえに思っていた1つひとつが、実はすごく大切なことに気づきます。家族がそばにいて嬉し、何気ない友人の一言が暖かい、何気ない庭に咲いている花に心打たれる、今まで聴き逃していた音楽に涙を流します。決して気が弱くなったわけではありません。大切な自らの支えに気づくとき、同じ苦しみの中であって、穏やかさを取り戻す可能性が見えてきます。

あるときには、苦しみのあまり早くお迎えが来ないかと願っていた人が、こんな自分でも生きていて良かったと思える瞬間でもあります。この関わり方である対人援助を、一部のエキスパートだけではなく、子供にもわかる言葉で伝えて行く必要性が2025年までに求められるでしょう。学ぶのは患者さん・家族だけではなく、関わる私たちも学びます。こんな魅力的な仕事はありません。

小澤竹俊

教育現場におけるグリーフサポート DVD 販売

死別を体験した子どもたちをどのようにサポートすればいいのでしょうか。『教育現場におけるグリーフサポート～死別体験にどう向き合うか～』は、教育現場においてグリーフがどのような形で現れ、どのようなサポートができるのか、3つの学校の実例をもとにさまざまな可能性を示してくれます。DVDをご購入いただければ、勉強会・授業・研修・上映会で自由に上映できます。

『教育現場におけるグリーフサポート～死別体験にどう向き合うか～』制作：ダギーセンター：アメリカ/2013/29分/英語/日本語字幕。日本語版 DVD 制作・販売：グリーフサポートせたがや価格：3,000円

お問い合わせはグリーフサポート世田谷 griefsetagaya@yahoo.co.jp まで

週末開催 わかちあいの会

めぐみ在宅クリニックでは、毎月第2水曜日の午前に、ご遺族向けのわかちあいの会を開催してきました。毎回10名前後の参加があります。しかし、仕事をされている人には平日の参加が難しい課題がありました。この7月30日土曜日に週末開催わかちあいの会が企画され、50代位までの方で配偶者(パートナー)を亡くされた方を対象に開催されました。安心してお話ができる配慮として、お子様は別室で「子どもの会」を開きました。ファシリテーターを担当するめぐみ在宅クリニックのスタッフも、当事者として参加しました。次回は11月26日(土)午前10時からです。詳細は、めぐみ在宅クリニックまでお問い合わせ下さい。

診療実績

	2006-2015年	2016年1月~3月	2016年4月	2016年5月	2016年6月	2016年7月	2016年計	総計
訪問回数	41,344	2,323	834	866	823	868	5,714	47,058
自宅永眠	1,528	61	23	34	24	20	162	1,690
施設永眠	158	11	5	3	6	4	29	187
在宅(自宅+施設)	1,686	72	28	37	30	24	191	1,877
病院永眠	397	21	3	6	8	5	43	440